東アジア版ダボス会議に参加して

－ホーチミン市で考える－

開倫塾
塾長　林明夫

Q：ベトナムには何をするために行ったのですか。

A：(林明夫：以下省略)2010 年 6 月 5 ～ 7 日にホーチミン市で開催された東南アジアに関する世界経済会議(World Economic Forum on East Asia)に参加するためです。World Economic Forum は毎年 1 月下旬にスイスのダボスで開催されているため、ダボス会議と呼ばれています。このダボス会議には地域版があり、毎年 6 月に東アジアでも開催され、昨年はソウル市、今年はホーチミン市、来年はジャカルタ市で開催される予定です。

Q：林さんは、この東アジア版ダボス会議に毎年参加しているようですね。なぜですか。

A：私は 2001 年の香港での会議から毎年この会議に参加し、今回で 10 回目となりました。個人の資格での参加は困難な会議のため、最初はホンコンのアジアソサイアティの会員として、翌年からは東京の経済同友会の会員として参加させていただいております。

この会議に参加している目的は、東アジアで開催される国際会議の中でよくテーマが準備され、講師やパネリスト、一般参加者が最も熱心に、また、率直に議論を交わす会議だからです。

各セッションが会議終了直後から、速記録をどんどん配布します。ホームページも充実。映像でも確認できます。(www.wef.org を御覧下さい)

19 回目の今年の会議は、初めてベトナムで開催されたので、ベトナム政府が国威発揚とベトナムへの投資促進のため、国を挙げて応援。空港には、参加者専用の入管ゲートまでありました。

アセアンの新興諸国の代名詞である CLMV(カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム)4 か国からは首相が勢揃いして参加。ベトナムでの初めての会議に華を添えました。動乱の続くタイからも首相が参加。特別セッションで、法の下での治安回復を訴えていました。

Q：この会議の特色は何ですか。

A：1 つのテーマでの各セッションは長くて 90 分です。テーマについては選び抜かれた 5 ～ 7 名のパネリストが長くても 5 分位ずつ自分の考えを手短に述べ、パネリスト同志が 1 回議論したあとは、半分以上の時間が会場の参加者との自由討論となります。

各分野の各国政府代表、大学や研究所などの専門家の他に、NPO、NGO、若者の代表も入り、また、参加者の何割かはジャーナリストなので、議論は白熱。東アジアにおける現状の把握とあるべき姿に向かっての議論が続きます。

首相や政府代表がパネリストに加わる場合には、その国の言語を使う場合が多いので同時通訳が付きます。今回の会議は英語、ベトナム語、中国語、日本語の同時通訳がありました。私は、

勉強のためにすべて英語の同時通訳を聴いていました。

何日か英語だけで会議に参加していると、終了するころには不思議なことに英語に随分慣れてきます。皆様も、英語が少しでもわかる方は是非お試し下さい。

Q：今回の会議で印象に残ったテーマは何ですか。

A：世界的な課題の解決に向けて急速に成長しているアジアのリーダーシップの役割とはについての議論でした。

今回の世界経済危機を乗り越えるためには、1998 年のアジア経済危機を乗り切った経験をもつ東アジアの役割が大きい。アセアンプラススリー(アセアン諸国と中国、韓国、日本)にインドを加えた国々こそが世界を経済の危機から救い、世界の経済の成長エンジンとなるものだという議論でした。

厳正で公平なルールの中での自由な経済活動、自由な貿易こそがこの経済危機を救う。

そのためには、人々の能力強化と人々の間の能力格差の是正、飛び抜けて優秀な人材(タレント)の確保と育成が不可欠。

職業訓練校や高等技術の専門学校、大学や産業の育成に直結した大学院とりわけビジネススクールの大増設が東アジアの発展のために欠かせない。

環境への取り組みは、持続可能な社会の形成と同時に、経済の成長に直結。政治的な腐敗(コラプション)を撲滅し、税金を最も効率的に使うべき。

このような議論が印象的でした。

Q：学習塾・予備校・私立学校の経営者の皆様にお伝えしたいことは何ですか。

A：世界はどのように動いているのか、世界で必要とされる能力とは何かを、年に何回かは海外に出かけて直接実感することが大切と考えます。

単なる物見遊山の観光旅行ではなく、御自身の知的興味や関心に最も沿った国際会議や教育機関に定期的に通い詰めることをお勧めいたします。

何のために受験勉強をするのか、その本当の理由を児童・生徒に伝えるべきと考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：最後になって申し訳ありませんが、開倫塾の付属機関である開倫研究所主催の教育経営品質研究会のメインイベントの一つである第 5 回全国模擬授業大会が、本年は 5 月 30 日(日)に栃木県足利市の足利工業大学附属高校をお借りして開催されました。全国から 250 名もの先生方が御参加になり、47 名の先生が模擬授業をなさりました。御協力ありがとうございました。

来年も 5 月 29 日(日)に第 6 回を開催の予定ですので是非ご参加下さい。

2010 年度の教育経営品質研究会は、9 月 24 日(金)から東京、竹橋の毎日新聞社ビルの同友クラブ会議室で毎月ゲストをお招きして開催の予定です。(お問い合わせ先 0284-72-5945 開倫塾塾長室まで)2010 年度は経営品質の向上のために、日本の製造業で蓄積された TQM(Total Quality Management)の知見をサービス産業である教育分野に応用し、サービス産業の最大の課題である様々な「バラツキ」の解決に向けて研究いたします。

最後に、今月もお読みになれば必ずためになる本を 2 冊御紹介いたします。どちらも OECD

編「スクールリーダーシップ－教職改革のための政策と実践－」、「日本の大学改革－ OECD 高等教育政策レビュー・日本一」、どちらも 2009 年明石書店刊。先進諸国最大のシンクタンクである OECD が、各国政府と世界レベルの専門家を総動員して調査、研究した成果を提言の形でまとめたものです。OECD の報告書は読み慣れてくると、その奥深さと先見性に驚かされます。5 年後に日本で議論される内容がすべて示されています。是非ご一読を。

－ 2010 年 5 月 28 日記－